

十四、少年暨兒童保護事件

臺灣各地方法院 102 年審理少年暨兒童保護事件計終結 59,270 件，較 101 年增加 4.50%，其中屬少年保護事件 57,813 件，屬兒童保護事件 1,457 件，分別較 101 年增加 4.57% 及 1.75%。

就保護處分情形觀之，102 年受保護處分人數計 13,917 人，較 101 年減少 1.47%，其中以保護管束 5,432 人最多，占保護處分總人數之 39.03%，訓誡並予假日生活輔導 4,161 人(占 29.90%)次之，訓誡 2,344 人(占 16.84%)居第三，保護管束並命勞動服務 1,011 人(占 7.26%)名列第四。

102 年少年暨兒童保護事件之保護原因，前四項依序為自制力不足(占 46.12%)、交友不慎(占 16.15%)、管教不當(占 7.85%)、缺乏法律常識(占 4.91%)，其餘如好奇心驅使所占比率在 4.78%左右。而觸犯刑罰法令行為者，其家庭經濟狀況屬勉足維持生活及低收入戶者達六成五，教育程度則以高中(職)程度(含畢業及肄業)為多。

表 2.11 臺灣各地方法院少年暨兒童保護事件終結件數及保護處分情形

年別	終 結 件 數			保 護 處 分 情 形 (人)						
	總計	少年保護事件	兒童保護事件	總計	訓誡	訓誡並予 假日生活 輔導	保護 管束	保護管束 並命勞動 服 務	安置 輔導	感化 教育
93 年	42 736	41 898	838	10 304	1 321	3 610	3 857	827	141	548
94 年	38 932	37 949	983	9 533	1 202	3 401	3 601	674	158	497
95 年	39 167	38 134	1 033	9 570	1 291	3 230	3 827	591	166	465
96 年	39 611	38 565	1 046	9 431	1 266	3 213	3 671	662	148	471
97 年	42 947	41 915	1 032	10 256	1 347	3 435	4 025	729	141	579
98 年	44 056	42 930	1 126	10 332	1 495	3 367	3 996	703	168	603
99 年	43 216	42 097	1 119	10 721	1 726	3 400	4 201	628	190	576
100 年	50 745	49 637	1 108	12 950	2 225	4 114	4 945	756	151	759
101 年	56 720	55 288	1 432	14 125	2 432	4 393	5 436	902	149	813
102 年	59 270	57 813	1 457	13 917	2 344	4 161	5 432	1 011	160	809
102 年較 上 年 增 減 (%)	4.50	4.57	1.75	-1.47	-3.62	-5.28	-0.07	12.08	7.38	-0.49